

韓流ブームがもたらした、日本人大学生の韓国に対する意識、態度の変化について

同志社大学 文学部 社会学科 社会学専攻

12022051

文 和年

2005年 12月

担当教員 立木 茂雄

# 韓流ブームがもたらした、日本人大学生の韓国に対する意識、態度の変化について

## 要旨

### 第一章 序論 研究の背景

#### 第一節 私のアイデンティティ

第一項 「不自然」とのであい

第二項 「中途半端」とのであい

#### 第二節 私にとっての韓流ブーム

第一項 「好」としての韓流ブーム

第二項 韓流ブームの陰に潜むもの

### 第二章 先行研究

#### 第一節 「韓流ブーム」という言葉

#### 第二節 「在日コリアン」という言葉

#### 第三節 「在日コリアン」に関連する記事

#### 第四節 韓流ブームの陰に関する記事

### 第三章 調査

#### 第一節 調査方法

- 第一項 質問紙作成
- 第二項 用いた尺度
- 第三項 質問紙の構成

## 第二節 調査の枠組み

- 第一項 調査対象者
- 第二項 調査用具

## 第四章 結果

### 第一節 「知」、「情」、「意」の変化

- 第一項 「知」の変化
- 第二項 「情」の変化
- 第三項 在日コリアンに対する「情」の変化
- 第四項 「意」の変化
- 第五項 「知」、「情」、「意」の変化を比較して

### 第二節 歴史問題、在日コリアンの問題に関するクイズの結果

### 第三節 仮説の検証

## 第五章 考察

### 第一節 意識の低さ

### 第二節 大学生を取り巻く情報源

### 第三節 「本質」とは何か

参考文献 引用文献リスト

付録

## 要旨

2002年 FIFA ワールドカップ日韓共催は両国を沸き立たせ、にわかに韓国という「響き」が身近に感じてきたことはまだ記憶に新しい。やがて「冬ソナ」が爆発的な人気を得、韓流ブームが巻き起こったわけであるが、韓流ブームは、日本人大学生の持つ、韓国への意識や態度を「好」へとどんどん変化させていったのである。しかし、日韓が常々掲げている「日韓友好」の本質に対する意識、態度の変化は、どの程度まで「好」へと変化したのであろうか。そして日韓関係には切っても切り離せぬ在日コリアンの問題についても、同じことが言えると思う。私は、この疑問に対して、自分の手で、自分の目でその実態を暴くべく、卒業論文を機に研究することにした。

そこで私は、仮説を立て、大学生を対象にアンケート調査を行った。その結果、韓流ブームは2つの二面性を持つことを立証することが出来た。

ここで、本論に入っていく前に、本論文で使用する用語の定義を明記しておきたい。

### 「韓流ブーム」

韓国のドラマ「冬のソナタ」が日本で放映された2003年を境とする。

### 「韓国文化」

「文化」という言葉を広く捉え、言語、宗教、政治経済、芸能、芸術、歴史、教育など、韓国で営まれるすべての事柄を含めた意味として、「韓国文化」という言葉を本論文では使用することにした。

### 「在日コリアン」

日本で生活をしながらも朝鮮民族の祖先を持ち、且つそれを周囲に示している人のことを言う。また、「在日韓国人」「在日朝鮮人」という二つの呼称で民族の分断を主張するのではなく、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国という異なった国籍を問わず、一つの民族としての呼称である「在日コリアン」という呼び方を本論文では使用することにした。

## 第一章 序論 研究の背景

研究の背景としては、在日コリアンという自分自身の内面的な要素が根底にあると言える。これは、この議題を論じるに当たって、欠かせぬ要素である。それゆえに、私自身が「在日コリアン」である自分をどう受け止め、どのような心持ちで生きているのかということ、まずは述べていきたいと思う。そしてどのような思いからこの議題が生まれたのかを述べていきたいと思う。

### 第一節 私のアイデンティティ

まずは、在日コリアンという自分自身をどのように受け止めているのかということ、私のアイデンティティの確立までの経緯を持って記述していきたいと思う。

#### 第一項 「不自然」とのであい

私は、在日コリアン3世である。私が生まれ育ち、今も生活をする所というのは、人口約15万人、うち在日コリアンの人口が約4万5千人という、日本最大の在日コリアン居住地域とされる大阪市生野区である。ここにはコリアタウンという商店街があり、それは在日コリアン文化の重要な役割を担い、ひとつのコミュニティとして存在している。私は幼稚園から小学校6年生まで、そこにある朝鮮初級学校で学んだ。韓国・朝鮮語はもちろん、民族楽器や民族音楽などを学んだ。そして家で行われる慣習というものもすべて韓国のものであり、それは今でも守られている。このように、幼い頃は民族教育に正しくどっぷり浸かり、一歩外を歩けば日本という現実よりも、在日コリアンが持つ独特な世界で生きているという、ある種の「不自然」の方が、私にとってはこの上ない現実であったのである。それは、今になって思えば、内面の幼さに加えて、在日コリアンの自分が日本という国で生きるという「不自然」を感じさせない環境であり、そして私はこの環境に守られていたのだと思う。

ミードは、自己というものを主我である「I」と、客我である「me」との二つの側面があり、これらは互いに前提し合って成り立っていると考えた。この、ミードの自己論の枠組みを考えてみると、人々はコミュニケーションをする過程でその相手や状況によってさ

さまざまな要素を意識し、内面に取り入れていると言える。相手の態度、期待、それまでの経験を相互に意識し合っているのである。そしてそれらを取り入れ、相手の態度を想定する。このような視点をミードは「me」としたのである。そして「me」が、個人は経験の中で自己意識を獲得していると考え一方、「me」に反作用する存在であり、行動を遂行する存在の「I」が存在する。(浅野 2001) 自己を形成するコミュニケーションの根底には、このような自我の経緯が組み込まれているのだ。私は幼い頃、「韓国人」であるはずの私がなぜ、日本に住んでいるのかがわからなかった。もちろん、歴史と在日コリアンという言葉が認識できる年齢ではなかったということが前提にあるかもしれないが、それでも、幼心に感じていたこの不自然の中でも、親をはじめとした周囲とのコミュニケーションから取得していた自己意識に反作用し、「韓国人」として生きることの重要性を「I」として表していた。

しかし、日本の学校教育法一条に規定され、その要件が「国民教育」を前提とする一条校に通っていた中学、高校、そして日本の大学で学ぶ今の環境は、もちろんそれまでのように守られているような環境ではない。内面的に成長をし、さまざまな人と出会い、日本の社会に少しずつ触れていく中での経験が、私にこの「不自然」を気づかせたのである。「私は日本で生きていても韓国人だ」と胸を張ることが立派であり、理想ともされるような教育環境の中で、素直にそれを受け入れられぬ自分、あるいはそれが出来ない自分への劣等感、それを胸を張って言える人と自分とのギャップ、このようなさまざまな葛藤、その中に点在する矛盾の中で、私は常に「自分」を探すようになっていた。

## 第二項 「中途半端」とのであい

私にとって、流れる血が朝鮮民族の血であり、国籍が韓国で、戸籍が韓国の済州島にあるという「me」の事実よりも、日本で生まれ、在日コリアンとして生きているこの現実の方が何よりも実感のあるものなのだ。この中途半端な自分にどのように折り合いをつけていくのか、というものが私の自分探しのキーワードであった。「私は韓国人」といってしまえば楽であった。しかし、それは本当に心の底から韓国人としての自分に誇りを持って生きる人に対しては非常に失礼であり、自ら情けない自分を作り出すような気がした。自分に誇りを持ちたいと思う気持ちと、ループを作って解決の糸を見つけられぬこの状態は、いつしか私に「中途半端な自分の位置」という問題の根源を再確認させたのである。そし

でこの「中途半端」というネガティブな言葉こそが、私の自分探しのヒントであったのである。

「中途半端な自分の位置」というのは、もう少し噛み砕いていってみると、「韓国人でも日本人でもない私」といえるのだ。私はこの事実を素直に受け止めようと思ったのである。なぜならば、自分に誇りを持つということの本意は、決して他の考えを排除したり、否定したりする上で成し得るものではないと思ったからである。それは、自分自身の中に混在するさまざまな考えに対しても同じことが言えるのだ。こうして私は、「中途半端な自分」を「韓国人でもあり、日本人でもある自分」、すなわち「在日コリアン」というひとつの種としての自分を見つけたのである。しかし、理想はいくらでも思いつくのだが、自分に誇りを持って生きることの難しさにまだまだ戸惑っているのが現実である。ただ、自分がこうありたいというべき姿がようやく定まってきたわけである。

## 第二節 私にとっての韓流ブーム

### 第一項 「好」としての韓流ブーム

韓流ブームが起きる以前までは、日本人が韓国のことについて述べる時、それはいわゆるバッシングであることが多く見受けられた。在日コリアンである私にとっては、この空気を人一倍強く感じていたのだろう。私が韓国、在日コリアンをどのように考えているのか云々よりも、日本人が韓国、在日コリアンに対してネガティブにとらえている人が多いということのほうが、明確な事実であった。私が今よりももっと視野が狭く、無知だったことを十分に踏まえたとしても、このころ、私にとっては日本人がすすんで韓国語を勉強したり、すすんで韓国へ留学したり、ましてや在日コリアンの私に興味を持ってくれたりするということは、考えられなかった空気である。

それが2002年のワールドカップを機に、韓国が日本人にとってネガティブとは明らかに違った、新たな視点を持つようになったといえるだろう。それは、単にスポーツ、ゲームとしての面白みに過ぎないということもいえるかもしれない。しかし、この頃から、確実に日本人にとっての私たち、在日コリアンの位置付けというのは変化していったように私は感じたのである。私にとってはただ世間に巻き起こっているブームというものではなく、どこか自分たちが日本人に受け入れられたように感じ、嬉しく思う現象であるのだ。「冬の

ソナタ」を火付け役とした韓流ブームが人々に広がるにつれ、それ以前と今とではまったく違う韓国の取り上げ方が各メディアでなされ、その変化というものを日々感じている。

## 第二項 韓流ブームの陰に潜むもの

前項で述べたように韓流ブームが沸き立ち、韓国の映画や音楽がどんどん広がっていくことと対照的に、外交関係としての日韓の友好は依然として冷ややかであるのが事実である。韓流ブームで温められた日本人の韓国に対する理解というのは、その水面下にある問題が、あたかもこの熱によって帳消しにすら出来てしまうような錯覚を起こしているように感じるのである。もっと簡単に言えば、「昔のこと」として放置され、むしろ韓流ブームの波に乗ってしまっただけで友好を築き上げればいいではないかという風潮が、多かれ少なかれあるのではないかということである。韓流ブームの水面下には、人々の歴史問題や在日コリアンに対する認知度などの変化は乏しく、日本と韓国の外交においても、さまざまな問題が一向に解決へと向かっていない事実があるのだ。

韓流ブームにより、日本人にとっての在日コリアンに対する意識や態度が大きく「好」へと変化したことは実感として感じる事が出来るし、日本人に徐々に受け入れられる立場へと変化しているとも思う。しかし、日本社会で生きる韓国人、在日コリアンにとって、「無知」では済まされたくはない過去や現状も多くあるのだ。韓流ブーム、日韓友好がしきりに叫ばれる中、この力量というのは、どこまで真の日韓友好へと導いているというのだろうか。私はこのような疑問を抱き、本研究に取り組みたいと考えたのである。そして、「韓流ブームによって高まった韓国文化への関心の高さ、歴史認識、在日コリアン問題に対する認知度の高さは関係しない」という仮説を、ぜひ明らかにしてみたい。

## 第二章 先行研究

「韓流ブーム」、「在日コリアン」という言葉がいつごろから使われだし、そして学術誌よりも広く読まれているであろう雑誌で、どの程度の頻度でそれが使われているのかを調べてみた。加えて、その内容というものは、ネガティブなものであったのか、それともポジティブなものであるのかを考えてみた。そして、今まさに私が明らかにしようとしているこの議題についての研究が既存しているのかも、調べてみた。

## 第一節 「韓流ブーム」という言葉

ワールドカップでは日本、韓国の両国ともに好成績を収め、その熱気も冷えぬうちに翌年である 2003 年、韓国で放送されていたテレビドラマである、「冬のソナタ」が日本で放送された。「冬ソナ」ブームの到来である。爆発的な人気を得た「冬ソナ」は翌 2004 年に地上波で放送されるようになったが、深夜の放送にもかかわらず、その視聴率は当時放送されていた NHK 大河ドラマ「新選組！」32 話分と肩を並べていたという（チョソン・ドットコム 2004）。「冬ソナ」はこうして間もなく生まれた「韓流ブーム」の火付け役となったといっても過言ではないだろう。ここで雑誌記事の検索データベースである大宅文庫で「韓流ブーム」を検索してみたところ 104 件が見つかった。そして「韓流ブーム」という言葉は、2004 年 2 月より出はじめていた。その内容を 10 個のカテゴリーに分けて分類してみたのであるが、そのすべてが決してネガティブな内容ではなく、韓国文化をリスペクトする内容のものであった。

## 第二節 「在日コリアン」という言葉

本論文の冒頭、要旨の部分で「在日コリアン」という言葉の定義を明記しておいた。それは、いわゆる「在日問題」を論議する上では欠かせぬものであると思う。

飯田によると、「在日コリアン」という言葉は 1990 年頃より使われだしたという（飯田 2002）。それまでは、「在日朝鮮人」、「在日韓国人」という呼称が広く使われており、現在も「在日韓国・朝鮮人」という言葉が多く使われている。しかし、この言葉には朝鮮民族の分断を主張し、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国のどちらに自分が属するのかということの意味している感があるように思う。加えておくと、「在日朝鮮人」という言葉は、朝鮮民主主義人民共和国を指すのではなく、韓国も含めた「朝鮮」というひとつの民族を示すものとしての意味合いを持つといえる。しかし、人々の意識の中に、このことが果たしてどこまで浸透しているのかを考えると、ほとんどが朝鮮民主主義人民共和国を思い浮かべる現実は否めない。したがって、本論文では在日コリアンの側から見た日本人大学生の意識と態度の変化ではなく、日本人にとって、その存在がどのように変化したのかを探ろうとするわけであるから、「在日韓国人」、「在日朝鮮人」、もしくは「在日韓国・朝鮮人」という言葉はふさわしくなく、朝鮮民族として、「コリアン」という言葉が最も適切である

と考えたのである。ちょうど 1990 年頃というのは、このような考えが人々の間で踏まえられ、議論する上で使われだしたのだと言える。

ここでも、「在日コリアン」を大宅文庫で検索してみた。すると 92 件検索された。その中で最も古いものは 1988 年のものであり、1990 年代に入って出入頻度が増え出し、1992 年に急増したことが下の図 1 から明らかである。そしてこれらの内容をカテゴリー分けすると、20 個に分類された。加えて述べておくと、同じように大宅文庫で「在日韓国・朝鮮人」を検索してみると 38 件ほど検索され、1997 年までのものに多く含まれていた。

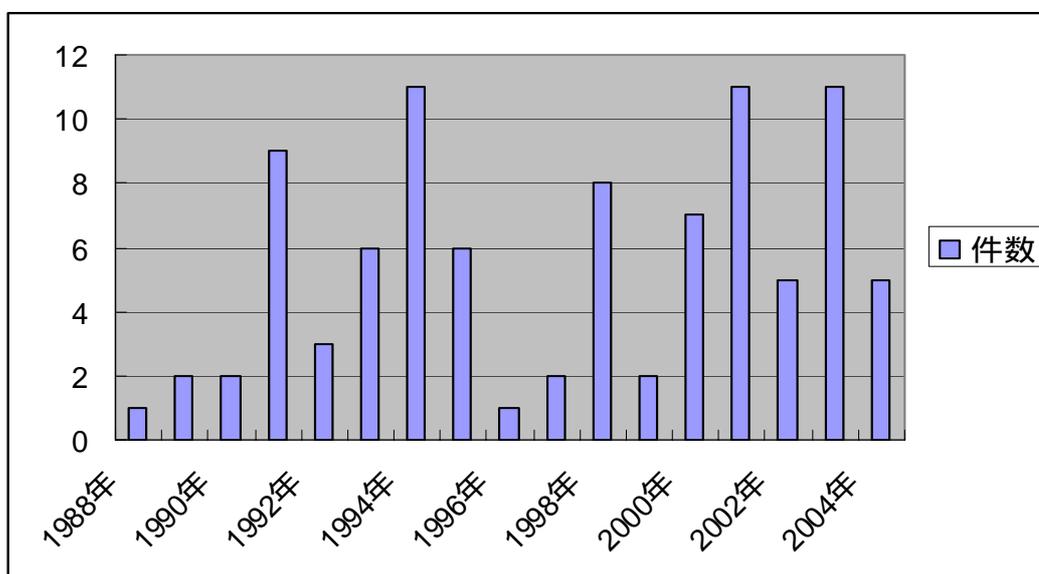


図1 大宅文庫による「在日コリアン」検索結果

### 第三節 「在日コリアン」に関する記述

この節では、前節での情報を元として進めていきたいと思う。大宅文庫から検索された「在日コリアン」の記述内容は、やはり「韓流ブーム」とは違い、さまざまなものがあるので、ここで述べておきたい。各記事の執筆者の数としては、日本人とコリアン、もしくは在日コリアンが均等であった。内容は新しいものであると韓流ブームの力も加わったことか、在日コリアン文化をリスペクトするような記事、そして在日コリアンとどう向き合い、差別のない共生社会を築いていけるかという記事が思いのほか多く見受けられた。以下の、検索された記事の内容を 20 個のカテゴリーに分類し、まとめた表を参照してほしい。

い。

表1 大宅文庫による「在日コリアン」検索結果内容のカテゴリー分類

(件数)

在日コリアンを主役とした映画に関する記事	8
在日コリアンのミュージシャンに関する記事	5
ワンコリアフェスティバルなどの在日コリアンが集う文化祭に関する記事	3
在日コリアンの文化人に関する記事	11
在日コリアンのスポーツ選手に関する記事	11
在日コリアンの俳優、タレントに関する記事	4
在日コリアンのアイデンティティについて述べている記事	12
在日コリアン取材したテレビ番組に関する記事	2
阪神淡路大震災で被災した在日コリアンのネットワーク復興に関する記事	3
在日コリアンの、日本国籍への帰化が増加していることについて述べた記事	4
サッカーW杯フランス大会への日韓共同応援ツアーに関する記事	1
在日コリアンが受けた精神的嫌がらせ、差別に関する記事	3
在日外国人に対する諸制度上の差別に関する記事	8
朝鮮学校に通う在日コリアン生徒の、日本のスポーツ大会への出場権をめぐる問題に関する記事	4
朝鮮学校、民族教育のあゆみに関する記事	4
在日コリアンの本名問題に関する記事	1
在日コリアンが知る、おいしい韓国冷麺と焼肉に関する記事	3
在日コリアンによる、拉致被害者家族支援集会に関する記事	3
在日コリアンの拭い難い、関東大震災時の「朝鮮人虐殺」の恐怖の記憶に関する記事	1
在日コリアンの文化に関する記事	1

これらの内容には、私が日本人大学生にとっては認知度が低いであろうと推測している事柄についての記述も十分にあった。たとえば、日韓の歴史を背景とした問題や在日コリアンの帰化の現状、参政権問題についての記事などがあり、決してそれらの情報が欠如しているわけではないことがわかった。

## 第四節 韓流ブームの陰に関する記事

新聞記事検索のデータベースで「韓流ブームと在日コリアン」という言葉で検索をかけてみると、5件であるが目を惹く内容のものがあつた。なぜなら、それらには私と同じような疑問について記されていたからである。韓流ブームとは裏腹に、歴史認識度や在日コリアンの人権問題の認識度、そして日韓友好に関しては何ら進歩もない。在日コリアンの側からだけでなく、それらの記事を執筆した日本人の筆者からは、「日韓の交流は幅広くなった。在日にこだわりすぎるわけではないが、されど『在日』なのである。」(朝日新聞 朝刊 2005.9.25:34)と述べられていた。さらに韓国に関心の高い日本人の方のインタビューを載せた記事からは、「『韓国と日本が対等な立場でお互いのことを考えるようになってきた。』と評価しながらも、戦時下の強制連行から目を背ける人、そして過去を知らない人がいる現実が気がかりだという。」(読売新聞 大阪朝刊 2005.2.13:37)と記されたものがあつた。少数であれ、日本人の側からしてもこのような意見が出るということは、私の抱いている疑問はなおさら信憑性を帯びていくのではないだろうか。

次に、本議題についてきちんとした調査研究がなされ、それに基づく論文が既存するかどうかを、論文の検索データベースで探してみたが、一件も見つからなかった。それに加え、先述した新聞記事の中にこのような記事があつた。韓流ブームがどんどん広がり、それをきっかけに日韓の情報誌が増えたのを踏まえた一方で、「歴史認識問題や在日コリアンの人権問題など、そのほかの韓国報誌に載せない硬派な話題も取上げたい。」(朝日新聞 朝刊 2005.10.1:27)というものである。いまだ、本議題に関しては調査が行われていないことが明らかになった。

## 第三章 調査

### 第一節 調査方法

現在の若者、具体的には私と同世代の日本人大学生にとっての「韓流ブーム」の影響、そして日韓の歴史認識や、在日コリアンに対する意識、態度の変化を探りたかったので、調査の対象を大学生とした。さらに、統計的なデータを取り、一般的な妥当性を測るべく、量的調査を手法とした。

## 第一項 質問紙作成

まず、韓流ブームが起きる以前と以後で全体を二つに分けることを念頭に置いた。次に韓流ブームが起きる以前の日本人の韓国文化、在日コリアンへの姿勢とはどのようなものであり、それは韓流ブームをきっかけにどのように変化したのかを調べるための質問を考えていった。

その中でも、さらに三つの内容に分けることにした。一つ目は、韓国の音楽や映画、ドラマ、食べ物やファッションなどの娯楽性を含んだ文化面に対する変化を測るための項目である。これらは私が立てた仮説上、韓流ブームの以前と以後を比較した調査結果では大差をつけた数字が現れることを期待していた。二つ目は、前者の反面、日韓の関係や日本社会での在日コリアンの強いられている現状、それに対する意識や態度を測るための項目である。そして三つ目として、具体的な日韓の歴史にある事柄や娯楽要素以外の韓国文化面、そして在日コリアンが日本社会で強いられている現状についての知識を測るためのものである。韓流ブームが盛んになるなか、あたかも日韓の外交関係としての友好までもが温まっているかのような錯覚に陥りそうになるが、それはどの程度まで現実のものなのだろうか。具体的に思い浮かぶ質問内容を付箋紙に書き出すことから始めた。

## 第二項 用いた尺度

前項で出てきた質問内容を、KJ法を用いて3つの尺度に分類することができた。その尺度として、「知」、「情」、「意」という言葉を用いた。これらは、人間の精神活動、及び行動を測る尺度である。

まず、「知」を用いて、被験者の知識を測る質問を集めた。たとえば、「～を知っている」という質問にたいして「はい」か「いいえ」の二択の回答を求めるものである。具体的に挙げるとすれば、「意味を知っている韓国の単語がある」、「朝鮮学校の存在を知っている」などがある。

次に、「情」を用いて被験者の感情を探る質問を集めた。たとえば、「～のようになればいいと思う」や「面白いと感じるかどうか」といった質問で、被験者の韓国に対する感情の部分を探ろうとする。具体的には、「日本と韓国は、さらに友好的になればいいと思う」などが挙げられる。これに関しては、1非常にそう思う、2そう思う、3どちらでもない、

4 そう思わない、5 まったくそう思わない、の5段階の回答をしてもらった。

最後の「意」を用いては、被験者の意思を探る質問を集めた。たとえば韓国文化の何かに興味を持ったとして、それを自分自身、あるいは自身の生活に取り入れたいと自主的に思ったかどうかを知りたいのである。そして「好」の感情の先を踏み出した、いわば行動に移す段階に注目している。たとえば「～したことがある」「すすんで～を読んだ」というふうなもので、具体的には「韓国の映画を自らすすんで観たことがある」、「新聞で在日コリアンの抱える諸問題が取り上げられているのを自らすすんで読んだことがある」といった質問がある。

### 第三項 質問紙の構成

質問紙の冒頭に、「韓流ブーム」の境となるのはいつのこととするのか、そして「韓国文化」と「在日コリアン」という言葉の定義を明記しておいた。まず、前項の内容を踏まえて最終的に出来上がった質問紙の構成を述べておきたいと思う。質問紙は、大きく3部構成となっている。

一部目は韓流ブームが起きる以前のことを問う項目、そして二部目は韓流ブームが起こった以後のことを問う項目である。この二つの項目を通してはさらにアルファベット順にAからHの8つの項目に分類される。そのうち分けとしては、AからDまでが韓流ブームが起きる以前、EからHまでが韓流ブームが起こった以後のことを問う質問である。さらに、韓流ブーム以前の質問項目Aと韓流ブーム以後の質問項目Eは同じ問題がされている。続いてBとF、CとG、DとHも同じ質問がされている。

なお、前項で述べた「知」、「情」、「意」の尺度もこれらの質問項目の中に割り振っている。AとEには「知」、B、CとF、Gには「情」、そしてDとFには「意」の尺度を組み込み、それぞれに韓流ブームの以前と以後で比較できるようにしておいた。

三部目としては、中学、高校で学ぶ韓国との歴史や、ニュースや新聞で取り上げられた事柄などの質問、イミダスに書かれてある程度の質問をし、それらの認知度を測れるものを作った。クイズ形式の問題にして24問作った。問題文が正解であると思うものには「○」を、わからないものには「？」を、そして間違っていると思うものには「×」をそれぞれ記入してもらおう。「？」を加えたのは、あくまでも正解率を明確に測りたいと思ったので、わからない問題を「○」か「×」のどちらかで済まされることを防ぎたかったからである。

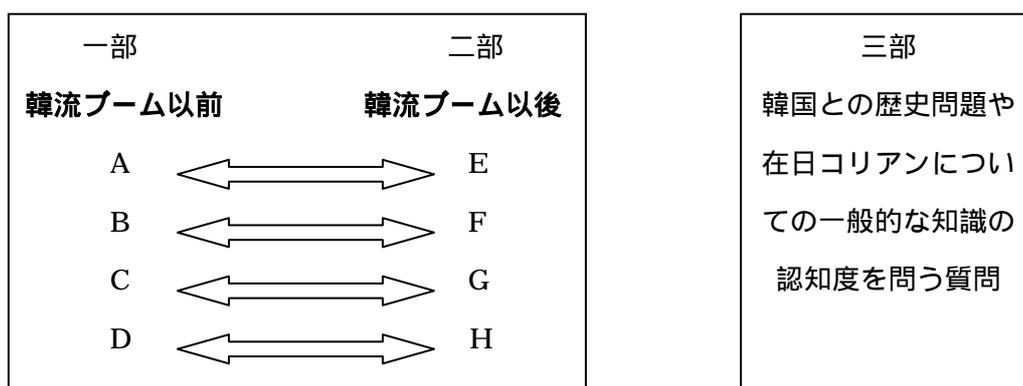


図 2 質問紙の構成

## 第二節 調査の枠組み

### 第一項 調査対象者

対象者は、同志社大学の 2005 年度秋学期において、社会学科専攻の教授陣によるオムニバス形式で行われた社会学トピックスという講義で、板垣竜太教授の回の受講生 62 名(男性 26 名、女性 36 名)とした。彼らに「知」、「情」、「意」の尺度をもとにした設問と、韓国の歴史認識、在日コリアンの一般的な知識の認知度を測る設問からなる質問紙を、社会学トピックスの講義が始まる前に一人につき一部ずつ配布し、10 分程度を目安に回答してもらった。

具体的な手続きとしては、2005 年 11 月 30 日、京田辺校地で行われるこの講義の前に、『韓流ブームがもたらした、日本人の韓国に対する意識、態度の変化について』という議題の質問紙を配布し、無記名で回答してもらった。なお、調査にあたっては「回収された質問紙は統計的に処理し、個人が特定されることもありません」と述べておいた。その後、板垣教授のご協力もあり、全員の回答を待って、回収を行った。

### 第二項 調査用具

質問紙の構成でも示したように、まずは韓流ブームが起きる以前と以後をひとつずつ比較してみる。一部目の設問項目群 A から D と二部目の設問項目群 E から H を比較すれば、後者のほうが全体を通して「好」を示す回答へと変化していると考えられる。三部目の回

答に関しては、正解の数を明確にしたいがため、誤答「×」と、わからない「？」と記入されている回答は合わせた数で分析することにした。

次に、AからHまでの回答をすべて得点化していく。この際、「はい」と「いいえ」の二択で答える質問に関しては、「はい」が1点、「いいえ」は0点でカウントし、Bの問1とFの問1の、複数回答に関しては、「13.なし」を除いてすべてを1点ずつ加算していく。そして回答に5つの段階を設けたもの、たとえば「1非常にそう思ったことがある 2そう思ったことがある 3どちらでもない 4そう思ったことはない 5まったくそう思ったことはない」の類に関しては、「1非常にそう思ったことがある」を5点でカウントし、ひとつずつ下がるにつれて「2そう思ったことがある」が4点、「3どちらでもない」が3点、「4そう思ったことはない」が2点、そして最後の「5まったくそう思ったことがない」を1点というふうにしてカウントしていった。このように得点化していった値を操作し、韓流ブーム以前のAからDの質問の合計点、韓流ブーム以後のEからHの質問の合計点を出す。この両方を比較し、その差が大きければ大きいほど韓国文化への意識、態度は「好」へと変化したと考える。そして三部目のクイズ形式の質問を採点し、正解していれば1点でカウントし、合計点を出す。この数字は、歴史問題と在日コリアン問題に対する認知度を測っているものなので、この得点と先述した韓流ブーム以前と以後の差分の得点を用いて韓国文化への意識態度の変化と歴史問題、在日コリアン問題に対する認知度高さの関連性を探る。そして仮説の検証を行う。なお、以上の操作はすべてアンケート調査の集計、分析をするソフトウェアであるSPSS13.0Jソフトを用いて分析した。

## 第四章 結果

### 第一節 「知」、「情」、「意」の変化

はじめに、質問紙の一部目と二部目の回答を集計し、それを単純に、韓流ブームが起きる以前と以後の数を比較してみる。

#### 第一項 「知」の変化

「知」の尺度を用いた韓流ブーム以前のことを問うた設問Aと、韓流ブーム以後のこと

を問うた設問 E を比較してみる。A と E の質問内容は、まったく同じものである。結論から言うと、すべての質問において、韓流ブーム以後の方が人々の「知」の尺度は上がっていた。以下、それぞれの質問に対して「はい」と答えた人数を照らし合わせた表を見てほしい。中でも、「2. 韓国俳優の名前を一人以上挙げられる」に関しては、最も大幅に「はい」と答えた人数が増えている。言うまでもなく、「冬ソナ」をはじめ、問 4 にもあるように、韓国映画も日本で盛んになったことが要因として挙げられよう。

**表 2 韓流ブーム以前と以後の「知」の変化**

(人数)

	韓流ブーム以前	韓流ブーム以後
1. 知っている韓国の単語があった	41	56
2. 韓国の俳優の名前を一人以上挙げられる	13	61
3. 韓国の俳優の名前を一人以上挙げられるミュージシャンの名前を挙げられる	12	42
4. 韓国の映画をひとつ以上知っている	32	57
5. 「朝鮮学校」の存在を知っている	56	57
6. 「在日コリアン」の存在を知っている	61	62

これに加えて、たとえば「知っている韓国の単語があった」という質問に対して、「韓流ブーム以前からひとつくらいは知っていたが、韓流ドラマを観てその数は増えた」という人の場合、「はい」か「いいえ」で答えるだけでは流ブームの以前と以後の設問のどちらも「はい」としか解答できない。それゆえにこの類の質問については、「はい」の回答の後に、その実数を記入する欄を設けた。これによって、韓流ブームの以前と以後の知識面の変化を明確に分析できるようにした。この結果、「1. 知っている韓国の単語があった」という問の具体的な実数を集計してみると、韓流ブーム以前では、最高で 10 個を回答した人が 2 名いたが、韓流ブーム以後では 10 個を回答した人は 7 名、20 個を回答した人は 4 名であり、その他、大学の語学の授業で韓国語を選択している学生が 2 名いた。

次に「2. 韓国の俳優の名前を一人以上挙げられる」という問の具体的な実数を集計して

みると、韓流ブーム以前では、最高で5人という回答であったが、韓流ブーム以後では、最高が10人であった。「3. 韓国のミュージシャンの名前を挙げることができる」という問の具体的な実数を集計してみると、韓流ブーム以前では、最高で4組・人という回答があったが、韓流ブーム以後では最高で10組・人であった。「4. 韓国の映画をひとつ以上知っている」という問の具体的な実数を集計してみると、韓流ブーム以前では最高で5本、韓流ブーム以後では10本であった。最後に「5. 朝鮮学校の存在を知っている」、「6. 在日コリアンの存在を知っている」の問に関しては、韓流ブーム以前からほぼ全員が認知していた。

以上のことから、音楽、映画、俳優、言葉といった、娯楽的要素が主としてある韓国文化に対する認知度は、韓流ブームの以前と以後とは大きな差をもって変化をしていた。それは間違いなく、韓国文化へのリスペクトする気持ちを日本人にもたらしたと言えるだろう。

## 第二項 「情」の変化

「情」の尺度を用いた韓流ブーム以前のことを問うた設問B、Cと、韓流ブーム以後のことを問うた設問F、Gを比較してみる。Bの問1、Fの問1の質問は、「韓国文化の中で、『面白い』と感じたことのあるものすべてに をつけてください」というものである。回答としては、1ドラマ、2映画、3音楽、4言語、5歴史、6経済、7政治、8教育、9食、10ファッション、11宗教、12その他、13なし、という13個の回答を設けた。ここでも、韓流ブーム以前と比べ、韓流ブーム以後の数字は、ほとんどの質問において増えていた。中でも、ドラマや映画に関しては韓流ブームの影響の大きさを見せられた。韓流ブーム以後に「その他」と答えた人は、具体的に韓国の「徴兵制度」や、「価値観」を挙げていた。以下の表を参照してもらいたい。

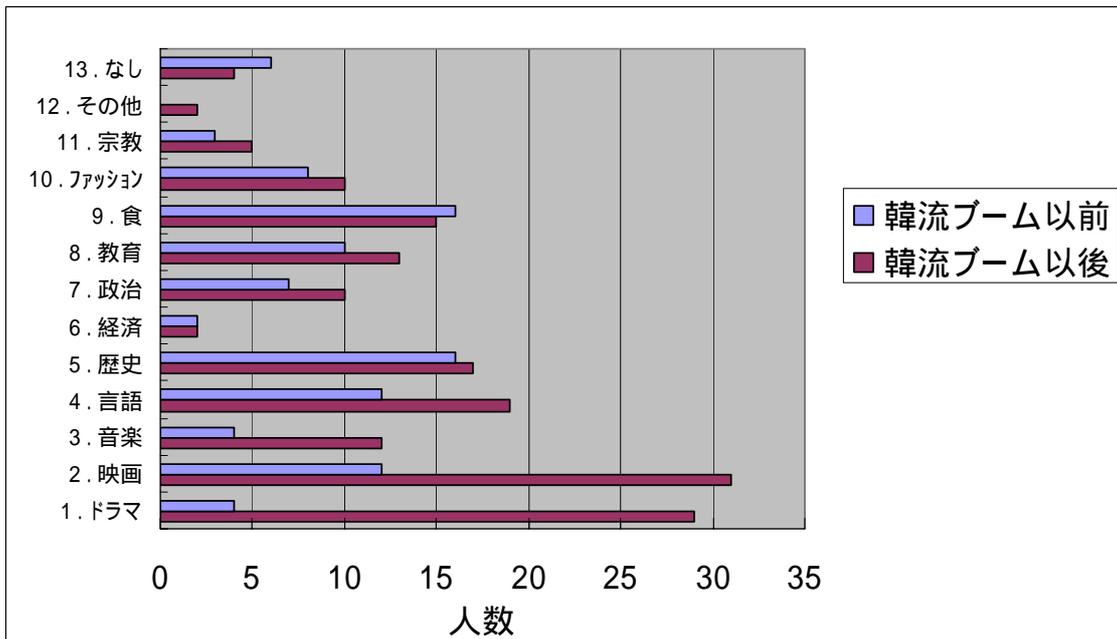


図3 韓流ブーム以前と以後の韓国文化への関心の変化

### 第三項 在日コリアンに対する「情」の変化

在日コリアンに対する「情」の変化をしてみる。まず、Bの問2と、Fの問2の「日本と韓国は、さらに友好的になればいいなと思ったことがある」という回答について見てみる。回答には、「1非常にそう思ったことがある 2そう思ったことがある 3どちらでもない 4そう思ったことはない 5まったくそう思ったことはない」の5段階の回答を設けた。そこで、明らかな違いとしては、この問に対して韓流ブーム以前では「まったくそう思ったことがない」と答えた人が一人いたのに対し、韓流ブーム以後の問0人となった。以下の表を参照してほしい。韓流ブーム以後の「非常にそう思ったことがある」の数値が、韓流ブーム以前と最も差をつけて増えている。

**表3 日本と韓国は、さらに友好的になればいいなと思ったことがある**

(人数)

	韓流ブーム以前	韓流ブーム以後
非常にそう思ったことがある	19	25
そう思ったことがある	33	34
どちらでもない	6	2
そう思ったことはない	3	1
まったくそう思ったことはない	1	0

「そう思ったことはない」という回答した人数が韓流ブーム以後では減っていることに加え、「どちらでもない」と答えた人が減ったことも、韓国への関心が高まったことを物語っているのではないだろうか。

Bの問3と、Fの問3「もしもあなたがある会社の社長であるとし、その会社で在日コリアンの人を採用するとなると、多少は躊躇したと思う」という回答についてみる。こちらの回答にも、「1 まったく躊躇しなかったと思う 2 躊躇したとは思わない 3 どちらでもない 4 躊躇したと思う 5 非常に躊躇したと思う」の5段階の回答を設けた。この問も、Bの問2とFの問2の結果と同様に、韓流ブーム以後には「まったく躊躇しなかったと思う」という回答が最も増えており、「非常に躊躇したと思う」と答えた人が韓流ブーム以後では0人となっていた。

**表4 もしもあなたがある会社の社長であるとし、その会社で在日コリアンの人を採用するとなると、多少は躊躇したと思う**

(人数)

	韓流ブーム以前	韓流ブーム以後
まったく躊躇しなかったと思う	12	18
躊躇したとは思わない	26	27
どちらでもない	8	6
躊躇したと思う	15	11
非常に躊躇したと思う	1	0

次に、Cの問1とGの問1の「日本人はもっと在日コリアンのことを知ろうとしたほうが良いと思ったことがある」という問をしてみる。こちらの回答も5段階のものを設けた。ここでは、「非常にそう思ったことがある」、「そう思ったことがある」の答えが韓流ブーム以後はどちらも大きく増えており、なお且つ無関心を思わせる「どちらでもない」と答えた人が韓流ブーム以後、9人減っている。そして「そう思ったとはない」という答えも、韓流ブーム以後は1人となった。

**表5 日本人はもっと在日コリアンのことを知ろうとしたほうが良いと思ったことがある**  
(人数)

	韓流ブーム以前	韓流ブーム以後
非常にそう思ったことがある	10	16
そう思ったことがある	25	37
どちらでもない	16	7
そう思ったことはない	10	1
まったくそう思ったことはない	1	1

最後に、Cの問2とGの問2の「在日コリアンに対する差別はなくしたほうが良いと思ったことがある」という問をしてみる。回答項目は、上記のものと同じである。ここでも、韓流ブーム以後には「非常にそう思ったことがある」の答えが増えたのと同時に、韓流ブーム以前は「そう思ったことがある」という回答であったが、韓流ブーム以後は「非常にそう思ったことがある」へと変化している人が2名いた。そして韓流ブーム以前に「どちらでもない」と答えた人のうち、7名が「非常にそう思ったことがある」へと変化していた。

表6 在日コリアンに対する差別はなくしたほうがいいと思ったことがある

(人数)

	韓流ブーム以前	韓流ブーム以後
非常にそう思ったことがある	17	26
そう思ったことがある	34	32
どちらでもない	9	2
そう思ったことはない	2	2
まったくそう思ったことはない	0	0

以上の在日コリアンに対する「情」の変化を比較して、共通して言えることは、「知」と同様に、在日コリアンに対して「情」の尺度からしても「好」へと変化していることは言うまでもない。それは、差別というものに対しても否定的にとらえているとも見受けられた。しかし、Bの問3とFの問3の比較で、ひとつだけそれとは逆のことが言えると思うのだ。私がこの質問を考えた意図としては、実際に持つ、在日コリアンに対する差別の意識が顕著に表れると思ったからである。韓流ブーム以前と比べ、韓流ブーム以後の差別の意識は減ったといえども、この問に対して「躊躇したと思う」という人が11人いるというのが事実である。「情」の尺度からは、韓流ブームで温められた感情としては「好」へと変化したのは明確にわかったのであるが、やはり在日コリアンに対する差別意識の根強さはまだまだ残っているのだ。それは同時に、つい2年前に到来した韓流ブームに拭い去れるほどの根強さではないということも意味する。

#### 第四項 「意」の変化

「意」の変化を問う質問では、「自ら~したことがある」というふうに、大学の講義や、誰かに強要されたり、義務的にする行動とは別に、自ら「~したい」と思ったことを根本として起こした行動について知りたいと思った。その人の韓国に対する「意思」を率直に知りたいのだ。韓流ブーム以前と以後の回答は、次の表の通りである。「5.在日コリアンについて知るために、自らすすんで行動を起こした」という質問を除いては、すべてにおいて韓流ブーム以後の数値は大きくなっている。しかし、「1.韓国のミュージシャンの音楽を自らすすんで聴いてみたことがある」と「2.韓国の映画を自らすすんで観たことがあ

る」という質問に対しては、韓流ブームの発端にドラマや映画があることからしても、韓流ブーム以前と以後の差としてかなりのひらきがあるのだが、やはりそれに比べて、「日韓の抱える問題」や「在日コリアンの抱える問題」などという硬派な分野になるとその関心度は劣っているように思う。表6の数値を見てもそれはわかるだろう。

**表7 韓流ブーム以前と以後の「意」の変化**

(人数)

	韓流ブーム以前	韓流ブーム以後
1.韓国のミュージシャンの音楽を自らすすんで聴いてみたことがある	6	13
2.韓国の映画を自らすすんで観たことがある	15	31
3.韓国を知るための行動を自らすすんで起こしたことがある	11	16
4.新聞で日韓の抱える諸問題が取り上げられているのを自らすすんで読んだことがある	40	42
5.在日コリアンについて知るために、自らすすんで行動を起こしたことがある	10	10
6.新聞で在日コリアンの抱える諸問題が取り上げられているのを自らすすんで読んだことがある	26	30

なお、「3.韓国を知るための行動を自らすすんで起こしたことがある」、「在日コリアンについて知るために、自らすすんで行動を起こしたことがある」という問で「はい」と答えた人の具体的な行動内容としては、「本を買った」、「大学の授業に取り入れた」、「在日コリアンの人に接した」、「韓国へ旅行した」などが挙げられていた。中には、「韓国へ留学した」という人もいた。

## 第五項 「知」、「情」、「意」の変化を比較して

韓流ブーム以前と以後の「知」、「情」、「意」に関する数値だけを比較すると、全体において増えていたという結果は、私が立てた仮説、「韓流ブームは、日本人の韓国への意識、態度を『好』へと変化させたけれども、歴史問題や在日コリアンに対する理解を深め、日韓友好の本質までをも『好』へと導くことは出来なかった」の前半、「韓流ブームは、日本人の韓国への意識、態度を『好』へと変化させた」ということを立証出来たと言えよう。そして残るは後半の「歴史問題や在日コリアンに対する理解を深め、日韓友好の本質までをも『好』へと導くことは出来なかった」という部分である。「知」の尺度の面ではまだ見えてこなかったが、「情」と「意」の変化を比較してきた中では、いくつか指摘する点があった。まさに、「好」へと変化した意識や態度の水面下にある問題が、ようやくデータとして見えてきたように思う。

## 第二節 歴史問題、在日コリアンの問題に関するクイズの結果

質問紙の三部目にある、歴史問題、在日コリアンの問題に関するクイズの結果についてみてみよう。これらの質問は、イミダスと高校で学ぶ歴史用語集などを参考にして作成した。言い換えれば、情報としては一般的に流れており、受験を経たばかりの大学生にとっては記憶に新しい問題ばかりであると考えられる。回答項目は、設問文が正解だと思えば「○」を、わからなければ「？」を、間違っていると思えば「×」をそれぞれ記入してもらった。「？」の記入を入れたのは、わからない問題に対しても「○」か「×」で答えてしまうと、正確なデータを得ることが出来ないからである。よって、質問に対して正解を答えていた場合は1点、誤答、もしくはわからないと答えた場合は0点でカウントする。次の表を参照してもらいたい。少しの考察も交えながら見ていきたい。

表8 歴史問題、在日コリアンの問題に関するクイズの結果

	答え	正解者数
1.2002年FIFAワールドカップにおいて、韓国は4位だった	正	31
2.イ・ピョンホンとは、韓国男優の四天王と呼ばれるうちの一人である	正	53
3.韓国では、大統領制をとっている	正	45
4.韓国には、徴兵制度がある	正	59
5.半導体、液晶パネルなどで世界を席捲した三星電子(サムスン)は、2002年にはソニーの売り上げ高を超えた。	正	6
6.韓国では、漢字は使われていない	誤	34
7.韓国では、日本で出版されている雑誌を販売することは禁止されている	誤	27
8.教科書検定を通過した日本の中学歴史教科書の記述に対し、韓国は修正を求めた	正	53
9.韓国の国家首脳はノ・ムヒョンである	正	44
10.韓国でいう「光復節」とは、広島に原子爆弾が投下された日と同じである	誤	8
11.韓国で言う「東海」とは、日本海のことである	正	25
12.6ヵ国協議の参加国に、韓国は含まれていない	誤	37
13.靖国神社には、A級戦犯は合祀されている	正	55
14.朝鮮戦争とは、アメリカ軍と韓国軍との間の戦争である	誤	50
15.「竹島問題」とは、韓国と中国の領土問題である	誤	54
16.韓国は、イラクに軍を派兵しなかった	誤	22
17.朝鮮半島分断後、今もなお韓国と朝鮮民主主義人民共和国の首脳会談は行われていない	誤	43
18.在日外国人の中で最も多いのは中国人である	誤	26
19.日本全都市のうち、在日コリアンが最も多く住むのは東京である	誤	30
20.朝鮮高級学校を卒業しても、高卒資格は得られない	正	10
21.特別永住者である在日コリアンには、参政権が与えられるようになった	誤	27
22.在日コリアンでも、日本名を名乗っている人がいる	正	57
23.平成17年11月、朝鮮高級学校生徒の大阪市立大学推薦入試への願書は、受理された	誤	10
24.朝鮮高級学校の生徒は日本全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に参加できる	正	26

まず、半数もしくは半数以上が正解した質問をいくつか取上げてみたい。「8.教科書検定を通過した日本の中学歴史教科書の記述に対し、韓国は修正を求めた」や「12.6 カ国協議の参加国に、韓国は含まれていない」、「13.靖国神社には、A 級戦犯は合祀されている」、「15.『竹島問題』とは、韓国と中国の領土問題である」の質問は、ニュースや新聞などで騒がれており、記憶に新しいことが、半数以上の人々が正解を答えた要因として考えられるだろう。その他、「14.朝鮮戦争とは、アメリカ軍と韓国軍との間の戦争である」と「17.朝鮮半分断後、今もなお韓国と朝鮮民主主義人民共和国の首脳会談は行われていない」の質問に関しても、朝鮮半島の歴史を学ぶ際に押さえていたことと思う。しかし、「3.韓国では、大統領制をとっている」と「9.韓国の国家首脳はノ・ムヒョンである」の正解は、半数以上がそうであったとしても、韓国では大統領制がとられ、ノ・ムヒョンという人物が韓国の大統領であることは、普段の生活の中でメディアを通して十分に知れ渡っているような事柄である。にもかかわらず、27%近くの学生がそれを知らなかったのである。「6.韓国では、漢字は使われていない」という質問にも同じようなことが言える。象形文字のようなハングルが印象的ではあるが、ニュースや新聞を通して、韓国人の名は漢字が使われているのをよく目にする。

次に、「16.韓国は、イラクに軍を派兵しなかった」という質問で、正解者が22人しかいなかったことに驚いた。イラク戦争が勃発して久しくない中、いかに隣国の動きに対して鈍感であるかが、顕著に出てきたと言えるのではないだろうか。

そして、以上の指摘よりも、さらに認知度の低さが象徴的であったのが、在日コリアンの問題に関してである。在日コリアンの問題に関して、7 問の質問を設けたのであるが、「22.在日コリアンでも、日本名を名乗っている人がいる」の正解者が57名だったことを除いては、正解率は半数に満たなかったのである。このように低い認知度の中で、在日コリアンの問題を改善へと持っていかうとすることの難しさを思い知るような結果であった。韓流ブームによって韓国のドラマや映画、音楽の知名度が上がったように、何事も、「知る」ことから始まるのだ。「23.平成17年11月、朝鮮高級学校生徒の大阪市立大学推薦入試への願書は、受理された」に関しては、この質問紙を配布した同年、同月である。これらについて、後の考察の章でもう少し掘り下げてみたいと思う。

### 第三節 仮説の検証

前節までは各設問の集計をもとに結果を見てきたが、この節ではいよいよ仮説の検証をする。まず、韓流ブーム以後の設問 E から H の総合得点より、韓流ブーム以前の設問 A から D の総合得点を引き、その差分を出した。そしてこれを X 軸に置き、Y 軸に歴史問題、在日コリアン問題に関するクイズを採点して出た得点を置いた度数分布表が次の図 4 である。差分に関していうと、平均では 5.0 点であり、最低得点は -4.0 点、最高得点は 13.0 点である。

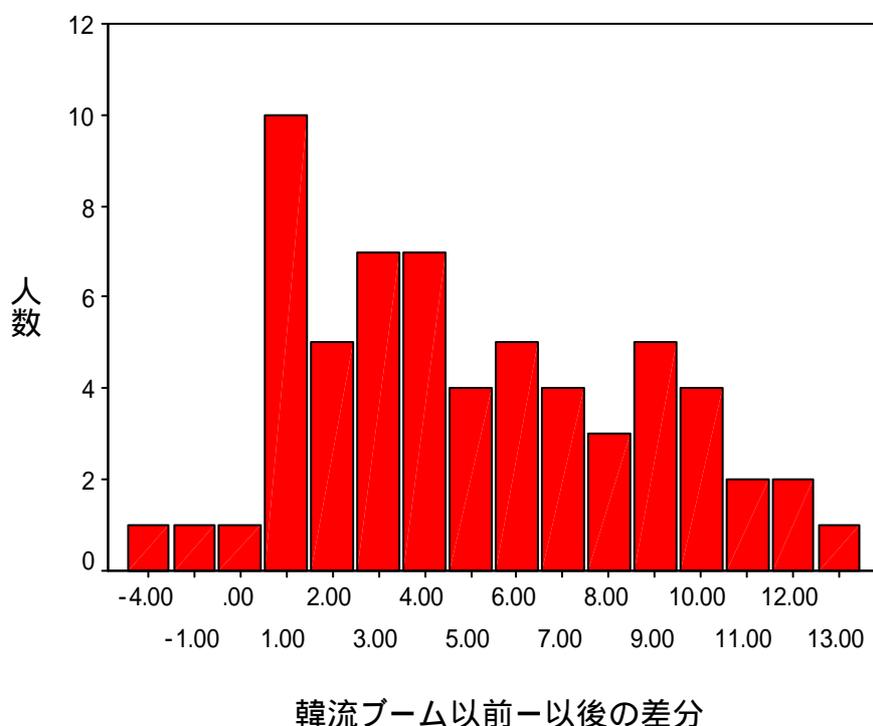


図 4 韓流ブーム以前と以後の差分と歴史問題、在日コリアン問題に対する認知度に関する度数分布表

韓流ブーム以後の方が韓国文化に対する意識、態度は「好」へと変化していることはここでも明らかである。しかし、歴史問題や在日コリアン問題に対する認知度もそれに伴って高くなっているとは言えないことがわかった。それをより明確にするために、以上のことを散布図にして、相関係性を見てみた。

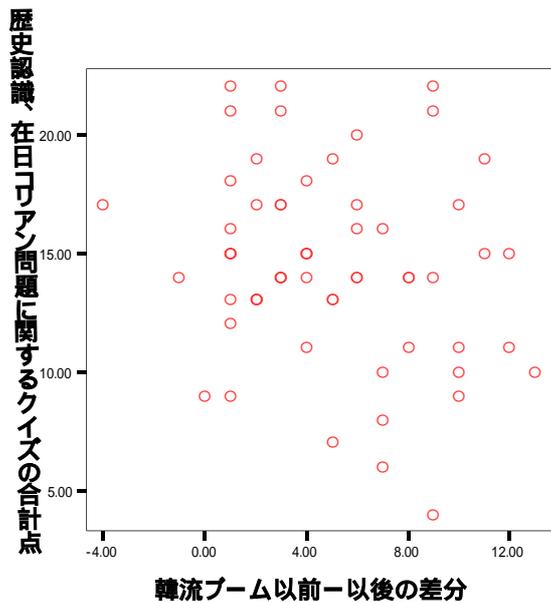


図5 韓流ブーム以前と以後の差分と歴史問題、在日コリアン問題に対する認知度に関する相関図

すると見ての通り、かなりのばらつきがあることが見えてきた。これにより、韓流ブーム以前と以後の差分得点が高いということと、歴史認識や在日コリアン問題に関する認知度が高いということは無相関であること導き出せたのである。よって、私が最初に立てた「韓流ブームによって高まった韓国文化への関心の高さと、歴史認識、在日コリアン問題に対する認知度の高さは関連しない」という仮説は支持されたこととなる。

## 第五章 考察

前章で、「韓流ブームによって高まった韓国文化への関心の高さと、歴史認識、在日コリアン問題に対する認知度の高さは関連しない」という仮説は立証された。

ではなぜ、韓流ブームは、歴史問題や在日コリアンに対する理解を深め、日韓友好の本質までをも「好」へと導くことは出来なかったのだろうか。この章では考察を進めていきたいと思う。

## 第一節 意識の低さ

やはり人というのは自分が興味の惹かれるもの、面白いと感じるものへと思考は働き、それに関してはいくらでも知識も情報も豊富にしていくことが出来る。しかし歴史問題や在日コリアン問題といった、硬派な問題には近寄りたいたいということが、なぜこのような温度差を生んだのかという根本の原因として挙げられるのではないだろうか。ここでは、国際的な意識の低さについて焦点を置いて考えてみたい。世界がどんどん国際化へと動いていき、日本はそれに負けず劣らず、むしろそれを率先するかのような勢いで突き進んでいる。しかしその勢いは、過去の歴史で深く絡み合い、今もそれを拭い去ることが出来ていないにもかかわらず、隣国との国際化に関しては依然力を発揮できていない。国際的意識というよりも、隣国に対する歴史を踏まえた意識が低いのである。これを解くきっかけとしても韓流ブームはあり得たはずである。2002年の日韓共催ワールドカップをはじめとし、隣国を理解するきっかけは韓流ブームとして多分にあったのだが、人々にとっては「たまごっち」のブームと何ら変わりのないものだったのではないだろうか。韓流ブームは、あたかも外交としての日韓友好をも築き上げていったようにみせた。しかし、それは人々に「韓国文化」に対するリスペクトする心を耕しただけであった。ブームとは本来、ただ面白いと思うがまま、興味を持つがままにブームの波に乗るといふ、それだけのことだったのだ。そして韓流ブームもそれまでのものでしかないということになるのだ。それゆえに韓流ブームの力量は、日韓友好の本質をつくまでにはいたらなかったのではないだろうか。

## 第二節 大学生を取り巻く情報源

では、意識の低さと一概に言うだけではなく、そうさせた環境というものにも視点を向けてみたいと思う。このことを気にしたきっかけというのは、質問紙の内容にあるフェイスシートにある。ここで私は、ニュースを週にどのくらい見るのか、また、新聞を週にどのくらい読むのか、という質問をした。単に国際的な意識が低いというよりも、それらに触れることや、関心をもつきっかけというものが生活の中にきわめて少ないと思うからである。それゆえ、生活の中に多く取り入れられているであろうこの2点について調べてみた。まず、次の表9を見てほしい。

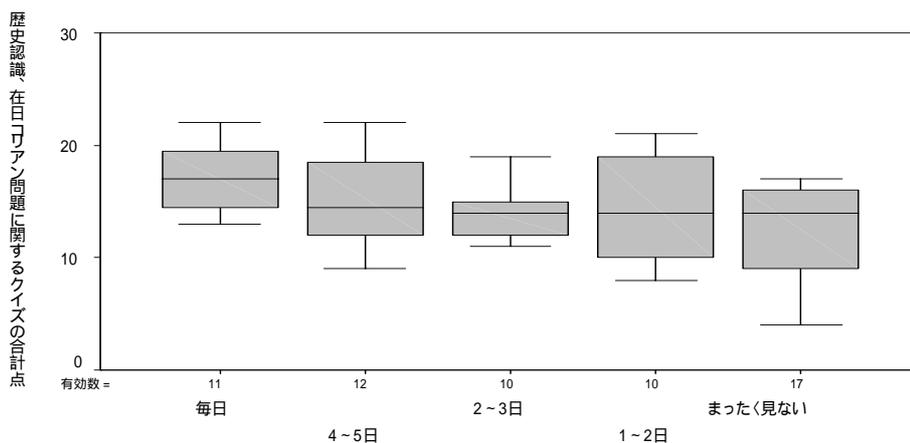
表9 週にどれくらいのニュースを見、新聞を読むのか

(人数)

	ニュース	新聞
毎日	36	12
4~5日	13	12
2~3日	7	10
1~2日	3	10
まったく見ない・読まない	3	18

すると、新聞を読むよりもニュースを見る人のほうが圧倒的に多かった。一人暮らしをする大学生の中に、新聞を購読していない人が多いということも関係しているだろう。活字離れしていく若者が、新聞よりもテレビでニュースを見ることのほうが、私たちの情報源として、大きく挙げられるといえる。テレビは、何かをしながら見ることができ、常に家にいるときはテレビのスイッチが入っているという具合で、かなりの人々の生活に浸透しているといえる。

次に、新聞を読む頻度の高さとクイズの得点の高さを比較してみた。新聞をたくさん読むほどに、硬派な問題に対する認知度、認識度は高いのではないかと考えたからである。以下の図6を見てほしい。やはり、新聞を読む頻度が多いほどに、日韓の問題、在日コリアンの問題に関する情報が多く、知識も蓄えられているのではないかと考えられる。



一週間のうち、どのくらい新聞を読みますか？

図6 新聞を読む頻度と歴史認識クイズの得点比較

このように、大学生は生活の中で主な情報源となっているテレビによって、韓流ブームのすごさを知り、韓国文化に興味を持つ。そして新聞をはじめとした文面では在日コリアン問題などが多数とりあげられてはいるものの、それらに触れることがますます少なくなっていくというのが現状なのではないだろうか。もしもテレビを中心としたメディア環境のうえで、ヨン様と同じくらいに日本と韓国、さらに言えば朝鮮半島の歴史問題としての韓流ブームにのっとり取り上げられていたとしたら、日韓の硬派な問題に対する意識の低さは刺激されたのかもしれない。テレビというものは、かなりの人口の生活に浸透しており、そのメディアが行う評価にさらされて人々は意識を変化させていくといっても過言ではない。先行研究を通して、文面としてはそれらの言及が少なからずともされていることがわかったが、やはり子供から高齢者にまでいたる誰もが生活に取り入れるテレビでこのような問題を取上げることが重要なのではないだろうか。特に子供は、テレビを通して隣国を知っていくと思う。現在の子供たちにとっての韓国が、韓流ブームによって「好」の意識、態度で理解されることは光栄なことであるが、その子供たちが次世代を担っていくことを考えると、日韓の歴史問題、在日コリアンの問題は低迷する一途をたどるであろう。このことは、在日コリアン 4 世、5 世の子供たちにとっても、韓国に対する「好」ばかりが先行していく社会で自己を確立していく中で、日韓友好の本質を見失う恐れも生じるのではないだろうか。日本の教育現場で、もっと早く、本質をついた隣国との出会いを取り入れていかなければならないと思う。

### 第三節 「本質」とは何か

それでは、幾度と日韓友好の「本質」ということを私は語ってきたが、その「本質」というものはいったい何を意味するのであろうか。私なりに考えてみたい。

まず、日韓友好の最終的な到達目標とは何かを考えてみる。それは、両国が何の隔たりもなく良好な外交を行うことであるということが考えられる。しかし、私にとって、それはしっくりくるものではないのである。それは、戦争で親を亡くした子供たちの存在を知らずに、世界平和を声高に言うような、ただの無責任以外の何でもないのと同じように聞こえるからである。グローバル化が叫ばれ、めまぐるしく国際化へと世界が変化をしていく中、もちろん誰もが世界の平和を願い、共存を理想としているだろう。しかしその理想とは裏腹に、隣国との共存を目指す姿勢を人々は持っているだろうか。このポイントから

して、世界平和の「本質」からずれていると思うのだ。

韓流ブームの波に乗って、在日コリアンである私に興味を持ってくれる人々に出会い、私はとてもうれしく思う。しかしその反面、複雑な想いも抱えている。きっと、私に選挙権がないことを知らない人が多いだろう。韓国文化や在日コリアンに対して、ようやく「好」の意識と態度を示し、日本と韓国が対等な立場でいられるようになった今、歴史を見つめなおし、一人ひとりが互いにリスペクトし合えるような、そのような「姿勢」を持つことが、日韓友好の本質を目指すにあたって求められると思う。

私の考える日韓友好の本質とは、その物事に対して必ずしも肯定的でなければならないとか、歴史問題や在日コリアンの問題について知識を豊富にし、それについて多くを語る事が出来なければならないなどということとは違う。人々が、過去を忘れていくことに抵抗し、それを見つめあい、その上で共存を目指していこうとする過程こそが日韓友好の「本質」であると思うのだ。

日韓の問題に限らず、無知のままに友好を語ることは、時に傷を負った者の傷をえぐりかねない。たとえ無知であっても、他の国の持つ文化、歴史も含め、リスペクトする姿勢を持つことが大切なのである。そこから、真の平和や共存は育っていくのではないだろうか。

(40字×30行、本文29ページ、400字詰め原稿53枚)

参考文献 引用文献

金 敬得 1995 『在日コリアンのアイデンティティと法的地位』 明石書店

金 賛汀 1995 『在日コリアン百年史』 三五館

金 英達 2003 『朝鮮人強制連行の研究』 明石書店

金 東勲 2004 『共生時代の在日コリアン 国際人権 30年の道程』 東信堂

飯田 剛史 2002 『在日コリアンの宗教とまつり』 世界思想社

浅野 智彦 2001 『自己への物語論的接近 家族療法から社会学へ』 勁草書房

山下誠也・キムソンヒョ・日隈光男編 2001 『在日コリアンのアイデンティティと日本社会』 明石書店

『imidas』 2005 集英社

『現代用語の基礎知識』 2004 自由国民社

「『在日』とは 博多を愛する息子に生き方みる思い」

『朝日新聞』朝刊 2005.9.25:34

「堀田広治さん 韓国知り深まる交流 手づくり機関紙 60号を迎えて」

『朝日新聞』朝刊 2005.10.1:27

隣国理解を深めるために 歴史踏まえて 金光敏氏」

『朝日新聞』朝刊 2005.10.4:34

「韓流ブームの陰で 『在日』に不安と戸惑い」

『読売新聞』 大阪朝刊 2005.2.13:37

杉山 麻里子 2005 「ソニン、姜尚中、梁石日、李鳳宇らが語る 在日社会と韓流ブーム」 『アエラ』 2005.9.30 ; 38

阿部 慶太 2000 「なにわだより 『生野区』日本最大の在日韓国朝鮮人居住地域」

<http://www.kiwi-us.com/~selasj/jsc/japanese/bulletin/no100/bujp1004.htm>

2005.12.9

2004 「『冬のソナタ』 最終回に最高視聴率を記録」 『朝鮮日報』

[http://japanese.chosun.com/site/data/html\\_dir/2004/08/23/20040823000067.html](http://japanese.chosun.com/site/data/html_dir/2004/08/23/20040823000067.html)

2005.12.9

## 付録

# 韓流ブームがもたらした、日本人の韓国に対する意識、態度の 変化について

同志社大学文学部社会学科社会学専攻

立木 茂雄ゼミ

文 和年(12022051)

今話題の「韓流ブーム」。これにより、日本と韓国は数年前では考えられないほどの距離を縮めてきたと思います。そこで、私は「日韓友好」の文字が沸き立つ裏にある、日本人が持つ日韓問題と在日コリアンに対する認知度や、意識の変化を探ってみたいと思い卒業論文として研究しています。そしてぜひ、皆さんに調査のご協力をして頂きたいと考え、本質問紙を配布させて頂いております。なお、回収された質問紙は統計的に処理し、個人が特定されることもありません。お手数ですが、どうぞよろしくお願い致します。

質問項目の前に、本調査で用いる用語の定義を記述しておく。

### 「韓流ブーム」

韓国のドラマ「冬のソナタ」が日本で放映された2003年を境とする。

### 「韓国文化」

「文化」という言葉を広く捉え、言語、宗教、政治経済、芸能、芸術、歴史、教育など、韓国で営まれるすべての事柄を含めた意味として、「韓国文化」という言葉の本論文では使用することにした。

### 「在日コリアン」

日本で生活をしながらも朝鮮民族の祖先を持ち、且つそれを周囲に示している人のことを言う。また、「在日韓国人」「在日朝鮮人」という二つの呼称で民族の分断を主張するのではなく、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国という異なった国籍を問わず、一つの民族としての呼称である「在日コリアン」という呼び方を本論文では使用することにした。

まず、**韓流ブーム以前**のことをお伺いします。

**A韓流ブーム以前の、あなたの韓国に関する知識をお伺いします。**

問1 意味を知っている韓国の単語があった。

1 はい ( ) 個                      2 いいえ

問2 韓国の俳優の名前を一人以上挙げる事が出来た。

1 はい ( ) 人                      2 いいえ

問3 韓国のミュージシャンの名前を挙げる事が出来た。

1 はい ( ) 組・人                      2 いいえ

問4 韓国の映画をひとつ以上知っていた。

1 はい ( ) 本                      2 いいえ

問5 「朝鮮学校」の存在を知っていた。

1 はい                      2 いいえ

問6 「在日コリアン」の存在を知っていた。

1 はい                      2 いいえ

**B韓流ブーム以前の、あなたの韓国文化に対する感情がどのようなものであったのかをお伺いします。**

問1 韓国文化の中で「面白い」と感じたことのあるものすべてにをつけてください。

- |       |      |                |       |
|-------|------|----------------|-------|
| 1 ドラマ | 5 歴史 | 9 食            | 13 なし |
| 2 映画  | 6 経済 | 10 ファッション      |       |
| 3 音楽  | 7 政治 | 11 宗教          |       |
| 4 言語  | 8 教育 | 12 その他(具体的に: ) |       |

問2 日本と韓国は、さらに友好的になればいいなと思ったことがある。

- 1 非常にそう思ったことがある
- 2 そう思ったことがある
- 3 どちらでもない
- 4 そう思ったことはない
- 5 まったくそう思ったことはない

問3 もしもあなたがある会社の社長であるとし、その会社で在日コリアンの人を採用するとなると、多少は躊躇したと思う。

- 1 全く躊躇しなかったと思う
- 2 躊躇したとは思わない
- 3 どちらでもない
- 4 躊躇したと思う
- 5 非常に躊躇したと思う

**C 韓流ブーム以前の、あなたの在日コリアンに対する意識についてお伺いします。**

1	2	3	4	5
非常に	そう	どちら	そう	ま
そう	思	でも	思	た
思	っ	な	っ	く
っ	た	い	た	そ
た	こ		こ	う
こ	と		は	思
	あ		な	っ
	る		い	た
				こ

問1 日本人はもっと在日コリアン  
のことを知ろうとしたほうが  
いいと思ったことがある。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

問2 在日コリアンに対する差別は  
なくしたほうがいいと思った  
ことがある。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

**D 韓流ブーム以前に、あなた自身が韓国文化と接した経験についてお伺いします。**

問1 韓国のミュージシャンの音楽を自らすすんで聴いてみたことがある。

- 1 はい
- 2 いいえ

問 2 韓国の映画を自らすすんで観たことがある。

1 はい 2 いいえ

問 3 韓国文化を知るための行動を自らすすんで起こしたことがある。

1 はい 2 いいえ

問 3-1 それはどのようなことですか？当てはまるものすべてにをして下さい。

1 本を買った 4 韓国へ留学した  
2 習い事をした 5 在日コリアンの人と接した  
3 大学の授業に取り入れた 6 その他(具体的に: )

問 4 新聞で日韓の抱える諸問題が取り上げられているのを自らすすんで読んだことがある。

1 はい 2 いいえ

問 5 在日コリアンについて知るために、自らすすんで行動を起こしたことがある。

1 はい 2 いいえ

問 5-1 それはどのようなことですか？当てはまるものすべてにをして下さい。

1 本を買った 4 韓国へ留学した  
2 習い事をした 5 在日コリアンの人に接した  
3 大学の授業に取り入れた 6 その他(具体的に: )

問 6 新聞で在日コリアンの抱える諸問題が取り上げられているのを自らすすんで読んだことがある。

1 はい 2 いいえ

次に、**韓流ブーム以後**のことについてお伺いします。

E**韓流ブーム以後の、あなたの韓国に関する知識をお伺いします。**

問 1 意味を知っている韓国の単語がある。

1 はい ( ) 個 2 いいえ  
問 2 韓国の俳優の名前を一人以上挙げられる。

1 はい ( ) 人 2 いいえ

問 3 韓国のミュージシャンの名前を挙げられる。

1 はい ( ) 組・人 2 いいえ

問 4 韓国の映画をひとつ以上知っている。

1 はい ( ) 本 2 いいえ

問 5 「朝鮮学校」の存在を知っている。

1 はい 2 いいえ

問 6 「在日コリアン」の存在を知っている。

1 はい 2 いいえ

**F 韓流ブーム以後の、あなたの韓国文化に対する感情がどのようなものであるのかをお伺いします。**

問 1 韓国文化の中で「面白い」と感じるものすべてに をつけてください。

1 ドラマ	5 歴史	9 食	13 なし
2 映画	6 経済	10 ファッション	
3 音楽	7 政治	11 宗教	
4 言語	8 教育	12 その他(具体的に: )	

問 2 日本と韓国は、さらに友好的になればいいなと思う。

1 非常にそう思う	4 そう思わない
2 そう思う	5 まったくそう思わない
3 どちらでもない	

問 3 もしもあなたがある会社の社長であるとし、その会社で在日コリアンの人を採用するとなると、多少は躊躇すると思う。

1 全く躊躇しないと思う	4 躊躇すると思う
2 躊躇するとは思わない	5 非常に躊躇すると思う

3 どちらでもない

G 韓流ブーム以後の、あなたの在日コリアンに対する意識についてお伺いします。

1 非常に そう 思う	2 そう 思う	3 ど ち ら で も な い	4 そ う 思 わ な い	5 ま っ た く そ う 思 わ な い
----------------------	---------------	--------------------------------------	---------------------------------	---

問 1 日本人はもっと在日コリアン  
のことを知ろうとしたほうが  
いいと思う。

1 2 3 4 5

問 2 在日コリアンに対する差別は  
なくしたほうがいいと思う。

1 2 3 4 5

H 韓流ブーム以後に、あなた自身が韓国文化と接した経験についてお伺いします。

問 1 韓国のミュージシャンの音楽を自らすすんで聴いてみたことがある。

1 はい 2 いいえ

問 2 韓国の映画を自らすすんで観たことがある。

1 はい 2 いいえ

問 3 韓国文化を知るための行動を自らすすんで起こしたことがある。

1 はい 2 いいえ

問 3-1 それはどのようなことですか？当てはまるものすべてにをして下さい。

- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| 1 本を買った       | 4 韓国へ留学した          |
| 2 習い事をした      | 5 在日コリアンの人と接した     |
| 3 大学の授業に取り入れた | 6 その他(具体的に: _____) |

問 4 新聞で 日韓の抱える諸問題 が取り上げられているのを自らすすんで読んだことがある。

1 はい                      2 いいえ

問 5 在日コリアンについて知るために、自らすすんで行動を起こしたことがある。

1 はい                      2 いいえ

問 5-1 それはどのようなことですか？当てはまるものすべてに をして下さい。

1 本を買った

4 韓国へ留学した

2 習い事をした

5 在日コリアンの人に接した

3 大学の授業に取り入れた

6 その他(具体的に:                      )

問 6 新聞で在日コリアンの抱える諸問題が取り上げられているのを自らすすんで読んだことがある。

1 はい                      2 いいえ

**最後に、あなた自身のことをお伺いします。**

問 1 あなたの性別を教えてください。

1 男

2 女

問 2 あなたの年齢を教えてください。

(       ) 歳

問 3 あなたは一週間のうち、どのくらいニュースを見ますか？

1 毎日    2 4~5日    3 2~3日    4 1~2日    5 まったく見ない

問 4 あなたは一週間のうち、どのくらい新聞を読みますか？

1 毎日    2 4~5日    3 2~3日    4 1~2日    5 まったく読まない

問 5 あなたには、日本以外の国籍を持つ知人がいますか？

(在日コリアンを除く)

1 はい (       ) 人                      2 いいえ

問6 あなたには、在日コリアンである知人がいますか？

1 はい ( ) 人      2 いいえ

問6-1 その人とはどのような間柄ですか？

(具体的に： )

問7 「冬のソナタ」全編を観ましたか？(観ていますか？)

1 はい      2 いいえ

以下の設問について、( )内にそれぞれ次のようにお答えください。

正解

わからない ?

間違い x

1. 2002年 FIFA ワールドカップにおいて、韓国は4位だった。( )
2. イ・ビョンホンとは、韓国男優の四天王と呼ばれるうちの一人である。( )
3. 韓国では大統領制をとっている。( )
4. 韓国には徴兵制度がある。( )
5. 半導体、液晶パネルなどで世界市場を席捲した三星電子(サムスン)は、2002年にはソニーの売上高を超えた。( )
6. 韓国では、漢字は使われていない。( )
7. 韓国では、日本で出版されている雑誌を販売することは禁止されている。( )
8. 教科書検定を通過した日本の中学歴史教科書の記述に対し、韓国は修正を求めた。( )
9. 韓国の国家首脳の名は、<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉である。( )
10. 韓国でいう「光復節」とは、広島に原子爆弾が投下された日と同じである。( )
11. 韓国でいう「東海」とは、日本海のことである。( )

12. 6カ国協議の参加国に、韓国は含まれていない。( )
13. 靖国神社には、A級戦犯が合祀されている。( )
14. 朝鮮戦争とは、アメリカ軍と韓国軍との間の戦争である。( )
15. 「竹島問題」とは、韓国と中国の領土問題である。( )
16. 韓国は、イラクに軍を派兵しなかった。( )
17. 朝鮮半島分断後、今もなお韓国と朝鮮民主主義人民共和国の首脳会談は行われていない。  
( )
18. 在日外国人の中で最も多いのは中国人である。( )
19. 日本全都市のうち、在日コリアンが最も多く住んでいるのは東京である。( )
20. 朝鮮高級学校を卒業しても、高卒資格は得られない。( )
21. 特別永住者である在日コリアンには、参政権が与えられるようになった。( )
22. 在日コリアンでも、日本名を名乗っている人がいる。( )
23. 平成 17 年 11 月、朝鮮高級学校生徒の大阪市立大学推薦入試への出願は、受理された。  
( )
24. 朝鮮高級学校の学生は、日本全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に参加できる。  
( )

ご協力、ありがとうございました。